

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790800050		
法人名	西野興産株式会社		
事業所名	グループホーム やまもと		
所在地	香川県三豊市山本町辻367-1		
自己評価作成日	平成29年12月5日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成30年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・できるだけ利用者が安心して生活できるように、利用者の思いやニーズの把握に努めるように支援している。又、利用者一人ひとりのできることに目を向け、できることを行ってもらいながら日々の生活が楽しく送れるように支援している。・天気の良い日は、近隣を散歩したり、畑作業を通して地域の方との交流を深めるようにしている。野菜作りをすることで、季節感や収穫の喜び、食材への話題が広がるように努めている。・玄関は日中錠剤せず自由に入出りができるようにしている。・家庭的な雰囲気の中で、利用者に寄り添った支援ができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

一日一日を大切に、利用者が安全に笑顔で過ごせるよう、職員が丸となって支援している。利用者一人ひとりの「できること」に目を向け、調理や洗濯など、毎日の生活の中で力を発揮してもらっている。居間は広く、大きな掃き出し窓があり、明るく開放感がある。また、ところどころに飾ってある季節の花が生活感や季節感を醸し出している。朝昼夕の三食をキッチンで作っており、調理の音や匂いが食欲を増進させる。菜園ではいろいろな野菜を栽培、収穫し、食材に使うなど、食の楽しみを作っている。保育園児との交流や地域の井手湊いに参加するなど、地域との関係が深まりつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、玄関に掲示している。居間には、サブタイトルを掲示し朝の体操後に唱和し、共有を行っている。	事業所独自の理念を玄関に掲示するとともに、各ユニットにはサブタイトルを掲示し、毎朝唱和している。安全に留意しつつ、一日一日を笑顔で過ごせてもらえることを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶を交わしたり、地域の祭りや清掃活動に参加し、地域の人と繋がりをもち交流している。近隣の方が、野菜作りに協力してくれたり、近所の方が野菜をおすそ分けで持って来てくれたりしている。	日々の散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、地域の清掃活動に参加している。また、地域の方が菜園での野菜づくりに協力してくれるなど、事業所が地域の一員として日常的に交流していることがうかがえる。地元の保育園と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物に出掛け、挨拶や立ち話の中で、地域の人々に認知症になっても生き生き生活できることを理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員・地域包括支援センター担当者・ご利用者やご家族に参加していただき、事業所の状況報告や意見交換などを行っている、よりよいサービスに繋がられるようにしている。	2か月に1回、市の職員や民生委員、利用者や家族が参加して開催している。出席者から地域の情報について提供していただくことがよくあり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者の入退時の相談や困難事例については、市役所や地域包括支援センターに相談し、助言を得るようにしている。	運営推進会議の際に情報交換を行うとともに、相談や報告などは、随時、市役所や地域包括支援センターを訪問して行うなど、連絡を密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関は施錠しておらず自由に出入りができるようにしている。帰宅願望があり外に出ようとするご利用者には、施設の周囲を散歩したり、さりげなく話題を変える等の工夫をしている。	日中は玄関の施錠はしておらず、外に出ようとする利用者には声をかけたり、一緒に周辺を散歩するなどしている。また、夜間にベッドから転落や転倒のリスクがある利用者には、センサーマットを活用するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会等を通し、身体拘束に該当する行為やその弊害について、定期的に確認することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にご利用者の側に立ち、言葉遣いや態度に注意するように話している。また、その都度注意するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご利用者が2名いるので、関係者と相談しながら支援するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約の際は、ご利用者やご家族に納得が得られるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族に話が聞けるように配慮し、意見や要望が把握できるように努めている。	家族の面会時に利用者の状況を報告するとともに、意見や希望を聴いている。また、運営推進会議に利用者や家族に出席してもらうなど、意見等を外部者へ表せる機会を確保している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員のミーティングを行い、意見や提案を聞いている。また、その都度個別に話を聞くようにしている。	月に1回のミーティング時に職員の意見や提案を聴くとともに、相談等は随時、個別に話を聴くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心は研修などを通して、各人が成長できるようにしていきたい。		
13		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	若い職員が多いので、介護福祉士やケアマネージャーの資格取得を応援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や三豊事業者協会などの研修会に参加し、同業者と交流が持てるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人とご家族に面談を行い、不安を少しでも解消できるように努めている。ご本人が入居について不安がある場合は、見学に来てもらったり、ご本人が希望する環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族の話を十分に聴き、信頼関係が築けるように努めている。できるだけ、ご家族の声に耳を傾け要望に添えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご本人・ご家族と面談し、ご本人の納得が得られず入居し環境の変化などによって、精神状態が不安定になったり入居の継続が困難と思われる利用者には、在宅サービスを勧めたり居宅支援事業所を紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は人生の先輩として、今まで経験した事や知識を教えて頂き、生活の場に活かしてご利用者と職員が共に支え合い、新たな経験を積んで行ける関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族がよりよい関係が継続できるよう、面会時には細目に状況を報告している。また、面会や買い物・定期受診の付き添いなど、ご家族としての役割りをお願いし、ご本人の生活を共に支えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や病院へご家族が連れて行ってくれているご利用者もいる。育てた野菜を馴染みの直売所へ持って行くなど、ご本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の協力のもと、馴染みの美容院や医療機関に外出したり、収穫した野菜を地域の産直市で販売するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。家族の面会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	数人でのレクリエーションや散歩・おやつ作り・洗濯干し等の参加を促し、ご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを把握するために、日々の支援の中で、ご利用者に寄り添って話を聞くように努めている。訴えの少ない人には、本人本位に検討するよう努めている。	入居時に把握した生活歴を踏まえつつ、日々の関わりや、毎日、おやつを囲んで利用者で過ごす時間があり、その際に希望や意向の把握に努めている。利用者の希望は可能な限り叶えようという事業所の姿勢がうかがえる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を把握するように努めている。また、ご利用者との会話の中で、これまでの暮らしの把握ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや一日の過ごし方を観察し、一人ひとりの現状の把握に努めている。ご本人のできることに目を向け家事など少しでも一緒にできるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を確認し、職員には月1回のミーティングで意見を聞き検討し介護計画に反映している。3か月ごとにモニタリングを行っている。	計画の進捗状況について、月に1回のミーティングで職員から意見を出してもらうとともに、3か月ごとにモニタリングを行っている。また、6か月ごとに計画を見直し、その際には、改めて家族に希望を聴き、計画に反映させている。	
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアの実践や日々の様子を記入し、毎朝の申し送りノートで情報を共有しながらケアの実践を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なご利用者には往診や理容訪問を行ってもらっている。また、ご家族が遠方にいる場合や都合によって受診の付き添いができない場合は、受診の付き添いを職員が行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の秋祭りを地域の方と一緒に楽しんだり、育てた野菜を馴染みの直売所で販売する等、もとの暮らしの延長がグループホームでも再現できるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の希望するかかりつけ医で受診してもらっており、通院介助は原則家族にお願いしている。ご家族が都合つかず受診の付き添いができない場合は、近くの病院に職員が付き添って受診するようにしている。	利用者及び家族が希望する医療機関に受診してもらっている。通院の際には、日々のバイタルや生活状況等を文書にして家族に渡すなど、適切な医療を受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師と入居者の情報共有を行い、相談した結果や助言に基づいた支援を提供している。定期受診にも同行し医師との連携を図り適切な医療を受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や医療機関、ご家族と連絡を取りながら、ご利用者に安心して頂けるように支援している。入院中は、少しでも早く退院できるように医療機関やご家族と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方については、入居時に事業所のできる範囲について説明し、ご本人やご家族と十分に話し合い、事業所ができる限りの支援をしている。	利用者が重度化した際の対応について、入居時に説明するとともに、状態の変化とともにその都度、家族と話し合い、方針を共有しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応マニュアルを作成しているが、応急手当や初期対応の訓練などは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアル・緊急連絡網を作成し、日中夜間を想定し年2回防災訓練を実施。地域住民、消防団との連携ホーム近隣の河川増水等に対する訓練は今後の課題である。	年に2回、日中及び夜間を想定した消防避難訓練を行っている。災害マニュアルや緊急連絡網を整備している。	夜間の火災を想定して、職員全員が初期消火や避難誘導が確実にできるような訓練を行うとともに、定期的に消防署の指導を受けることを期待したい。また、水害について、具体的な対応方法について検討を行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするように努めているが、できていないこともある。申し送りなどは、他の利用者の耳に入らないよう、職員間でプライバシーが尊重できるよう心掛けている。	申し送りの際は、利用者の名前を直接言わないよう、プライバシーに留意している。また、職員が利用者を制止したり、叱責することがないようにミーティングで周知したり、気になる場合は個別に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望や思いを普段の生活の言葉からくみ取り、自己決定を否定せずできるだけ尊重できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は、おおむね職員の働きかけで1日のリズムを作っているが、「今日は何がしたいですか？」の問いかけをご利用者に行い、少しでも希望が叶えられるような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院へ散髪に行くなど、ご利用者の希望に合わせている。また、外出時などは衣服の選択を一緒に行うようにしている。その人らしい身だしなみやおしゃれができるように気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の盛り付けや配膳・洗い物などは、ご利用者と一緒に行っている。畑で収穫した野菜の下処理をご利用者に行ってもらったり、一緒に漬物を作ったりしている。	朝昼夕の三食を手作りで調理している。野菜の下ごしらえや盛り付け、洗い物など、利用者も一緒に参加している。事業所の菜園では、いろいろな野菜を利用者とともに栽培し、収穫するなど、食の楽しみを作っている。食事は職員もいっしょに摂っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに食事や水分量を記録し、栄養不足や脱水にならないように気を配り、職員間で情報共有を行っている。食事量や水分量が少ないご利用者には、ご家族と相談して食べられるものを個別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができるご利用者には毎食後、声かけや誘導して行ってもらおうようにしている。介助が必要なご利用者は、職員の介助により行うようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導にて、できるだけトイレにて排泄ができるように支援している。ご利用者の状況に合わせてパットの使い分けをしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗やおむつの使用を減らすよう努めている。また、パッドを利用者の状態に合わせて、適切なものを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や天気の良い日は施設周辺の散歩などの運動を取り入れたり、便秘症のご利用者のご家族と相談し牛乳やヨーグルトを個別に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴ができるように支援している。入浴を拒否されるご利用者へは、声かけを工夫したり、入浴日や時間帯を変更している。	週3回入浴できるように支援している。入浴を拒否する利用者には声かけや環境面で工夫している。入浴時はコミュニケーションを大切にしており、普段聞けないことをゆっくり聞くよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者に応じた時間で入眠できるように支援している。日中も希望や体調に合わせて休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や用法は個々に管理しており、確認ができるようにしている。投薬時には、日付け・名前や時間など声に出して誤薬を防ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のご利用者の能力を活かし、家事などに参加できるように支援している。個人でも集団でも、共に楽しめる時間が持てるレクレーションの内容になるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常は天気が良ければ散歩に出掛けている。食材の買い出しと一緒に出掛けたり、季節の花見や地域の行事・外食にも出かけるよう心掛けている。外食など、ご家族が外出支援してくれるご利用者もいる。	天気の良い日は散歩に出かけたり、近くのスーパーに食材の買い出しに行ったりしている。ファミリーレストランやショッピングモールに外食に出かけることがある。また、季節の花を見にドライブに行くなど、できるだけ戸外に出かけられるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は事務所で管理しているが、定期的な買い物希望される方には、ご利用者が財布を持ち職員が後方支援する形をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族などから電話があった場合は、職員が取り次ぎ、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関には季節の花を飾ったり、夏には居間の窓の全面にすだれを立てかけ、日差しを遮光し心地よく過ごせるようにしている。	居間は広くゆったりしており、大きな掃き出し窓があって、開放感が感じられる。屋内の作りは家庭的で、ところどころに季節の花を飾ってあり、生活感がある。清掃が行き届いており、清潔感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮し食事やレクレーションの席を決めている。気の合ったご利用者で自由に座れるようにソファを置いている。また、中庭にベンチも置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたもの、ご家族からの持ち参物などを目の届くところに置き少しでも安心していただけるように支援している。	家族の写真を飾ったり、使い慣れたものを持ち込んでもらうなど、居心地よく過ごせるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・居室が分かりやすいように図や文字で表示している。また、必要な箇所には手すりを取り付けている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、玄関に掲示している。居間には、サブタイトルを掲示し朝の体操後に唱和し、共有を行っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶を交わしたり、地域の祭りや清掃活動に参加し、地域の人と繋がりを持って交流している。近隣の方が、野菜作りに協力してくれたり、近所の方が野菜をおすそ分けで持って来てくれたりしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物に出掛け、挨拶や立ち話の中で、地域の人々に認知症になっても生き生き生活できることを理解していただいている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員・地域包括支援センター担当者・ご利用者やご家族に参加していただき、事業所の状況報告や意見交換などを行い、よりよいサービスに繋がられるようにしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者の入退時の相談や困難事例については、市役所や地域包括支援センターに相談し、助言を得るようにしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関は施錠しておらず自由に入出りができるようにしている。帰宅願望があり外に出ようとするご利用者には、施設の周囲を散歩したり、さりげなく話題を変える等の工夫をしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にご利用者の側に立ち、言葉遣いや態度に注意するように話し合っている。また、その都度注意するようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご利用者が2名いるので、関係者と相談しながら支援するようにしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約の際は、ご利用者やご家族に納得が得られるまで説明している。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族に話が聞けるように配慮し、意見や要望が把握できるように努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員のミーティングを行い、意見や提案を聞いている。また、その都度個別に話を聞くようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心は研修などを通して、各人が成長できるようにしていきたい。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	若い職員が多いので、介護福祉士やケアマネージャーの資格取得を応援していきたい。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や三豊事業者協会などの研修会に参加し、同業者と交流が持てるようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人とご家族に面談を行い、不安を少しでも解消できるように努めている。ご本人が入居について不安がある場合は、見学に来てもらったり、ご本人が希望する環境づくりに努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族の話を十分に聴き、信頼関係が築けるように努めている。できるだけ、ご家族の声に耳を傾け要望に添えるようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご本人・ご家族と面談し、ご本人の納得が得られず入居し環境の変化などによって、精神状態が不安定になったり入居の継続が困難と思われる利用者には、在宅サービスを勧めたり居宅支援事業所を紹介したりしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は人生の先輩として、今まで経験した事や知識を教えて頂き、生活の場に活かしてご利用者と職員が共に支え合い、新たな経験を積んで行ける関係づくりに努めている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族がよりよい関係が継続できるよう、面会時には細目に状況を報告している。また、面会や買い物・定期受診の付き添いなど、ご家族としての役割りをお願いし、ご本人の生活を共に支えるように努めている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や病院へご家族が連れて行ってあげているご利用者もいる。育てた野菜を馴染みの直売所へ持って行くなど、ご本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	数人でのレクリエーションや散歩・おやつ作り・洗濯干し等の参加を促し、ご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談や支援を行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを把握するために、日々の支援の中で、ご利用者に寄り添って話を聞くように努めている。訴えの少ない人には、本人本位に検討するよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を把握するように努めている。また、ご利用者との会話の中で、これまでの暮らしの把握ができるようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや一日の過ごし方を観察し、一人ひとりの現状の把握に努めている。ご本人のできることに目を向け家事など少しでも一緒にできるように心がけている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を確認し、職員には月1回のミーティングで意見を聞き検討し介護計画に反映している。3か月ごとにモニタリングを行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアの実践や日々の様子を記入し、毎朝の申し送りノートで情報を共有しながらケアの実践を行っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要のご利用者には往診や理容訪問を行ってもらっている。また、ご家族が遠方にいる場合や都合によって受診の付き添いができない場合は、受診の付き添いを職員が行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の秋祭りを地域の方と一緒に楽しんだり、育てた野菜を馴染みの直売所で販売する等、もとの暮らしの延長がグループホームでも再現できるような支援を行っている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の希望するかかりつけ医で受診してもらっており、通院介助は原則家族にお願いしている。ご家族が都合つかず受診の付き添いができない場合は、近くの病院に職員が付き添って受診するようにしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師と入居者の情報共有を行い、相談した結果や助言に基づいた支援を提供している。定期受診にも同行し医師との連携を図り適切な医療を受けられる体制をとっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や医療機関、ご家族と連絡を取りながら、ご利用者に安心して頂けるように支援している。入院中は、少しでも早く退院できるように医療機関やご家族と情報交換している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方については、入居時に事業所のできる範囲について説明し、ご本人やご家族と十分に話し合い、事業所ができる限りの支援をしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応マニュアルを作成しているが、応急手当や初期対応の訓練などは行っていない。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアル・緊急連絡網を作成し、日中夜間を想定し年2回防災訓練を実施。地域住民、消防団との連携ホーム近隣の河川増水等に対する訓練は今後の課題である。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするように努めているが、できていないこともある。申し送りなどは、他の利用者の耳に入らないよう、職員間でプライバシーが尊重できるよう心掛けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しの時間でもご利用者と関わり、その人との日常を知り、ご本人の思いや希望に添えるように声かけしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にし、できる限りご利用者の希望に沿った支援が行えるようにしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院へ散髪に行くなど、ご利用者の希望に合わせている。また、外出時などは衣服の選択を一緒に行うようにしている。個別に化粧品が必要なご利用者には購入できるように支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の盛り付けや配膳・洗い物などは、ご利用者と一緒に行っている。畑で収穫した野菜の下処理をご利用者に行ってもらったり、一緒に漬物を作ったりしている。畑で作っている野菜の収穫もご利用者と一緒に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに食事や水分量を記録し、栄養不足や脱水にならないように気を配り、職員間で情報共有を行っている。水分量が少ないご利用者には、水分を促すように声かけしできるだけ水分摂取するようになっている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができるご利用者には、毎食後声かけや誘導して行ってもらうようにしている。介助が必要なご利用者は、職員の介助により行うようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導にて、できるだけトイレにて排泄ができるように支援している。また、その日の排泄状況などを確認・把握して定期的にトイレに誘導するようにしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の記録をとり、十分な水分摂取を促している。朝の体操や天気の良い日は外を散歩したり、天気の悪い日は施設の廊下歩行などを取り入れている。便秘症のご利用者はご家族と相談し牛乳やヨーグルトを個別に提供している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴ができるように支援している。入浴時間になり「後がいい。」と希望があった場合は時間を変更している。拒否があれば声かけを工夫したり入浴日を変更したりしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者に応じた時間で入眠できるように支援している。日中も希望や体調に合わせて休息がとれるように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や用法は個々に管理しており、確認ができるようにしている。投薬時には、日付け・名前や時間など声に出して誤薬を防ぐようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、ご利用者一人ひとりの能力を活かし家事などに参加できるように支援している。誕生会や季節の行事・作業などを生活の中に取り入れてね一人ひとりが能力を発揮したり楽しめるように工夫している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常は天気が良ければ体調に気をつけながら、散歩に出掛けている。食材の買い出しや畑の作業や収穫に出掛け、地域の人とふれあいを持ちながら生活できるようにしている。花見や地域の行事・外食にも出かけるように心がけている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承のうえで、職員付き添いで買い物に行っている利用者もいる。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族などから電話があった場合は、職員が取り次ぎ、ゆっくり話ができるように支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関には季節の花を飾ったり、夏には居間の窓の全面にすだれを立てかけ、日差しを遮光し快適に過ごせるようにしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブルやソファを置き、気の合ったご利用者同士で談話が楽しめるようにしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、カレンダーや写真などを飾って居心地良く過ごせるようにしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・居室が分かりやすいように図や文字で表示している。また、必要な箇所には手すりを取り付けている。